

は し が き

秋田大学H15特色GP代表

教育文化学部教授 石川 三佐男

平成15年、文部科学省は「特色ある大学教育支援プログラム」(Good Practice の略で「GP」とも)を開始し、全国の国公立大学・短大に対して教育のあり方や教育の質の向上について広く議論させる道を拓きました。その第一回特色GP(採択率は約10%)に秋田大学は「三学部連携による地域・臨床型リーダー養成」をもって採択されました。以後四年間の取組を経て、平成19年3月、秋田大学H15特色GPのプログラムは全日程を収束する運びとなりました。これはひとえに学内外の多くの支援者のたまものです。

本報告書は次の5項目に留意して作成されています。

- 1) 最終年度にふさわしい取組内容であること
- 2) 基本的には平成18年度の取組を主とする内容であること
- 3) 分野によっては過年度取組を含めて総括した内容であること
- 4) 授業に参加した学生たちの声をできるだけ多く反映したものであること
- 5) 外部評価にも十分に堪えうる内容であること

本報告書は多彩でかつ特筆すべき内容を含んでいます。

全学合同体験セミナー・実習・授業報告・臨床観察型教室活用状況報告等は当然のことですが、去る3月1日(木)の「秋田大学特色GPフォーラム」における小笠原正明氏(東京農工大学大学教育センター教授)の基調講演と同氏を交えてのパネルディスカッションはその最たる事例です。小笠原氏は第一回特色GP審査部会代表者として秋田大学の審査を担当された方でもあります。今回のご講演によって私どもの取組は同氏から四年後に再度厳格な評価を受ける機会に恵まれました。詳細は本編に譲ります。高い評価と厳しいご指摘、いずれをとっても私どもを鼓舞させないものではありません。

秋田大学のH15特色GP「三学部連携による地域・臨床型リーダー養成」に関する私の総括的所見は次の通りです。

本学のフィールドインターンシップ型授業は、学生の優れた資質を掘り起こし、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める極めて有効な教育方法です。価値観や専攻分野が異なる三学部の学生が一堂に会して研鑽しあうフォーラムやポスターセッションの教育効果も計り知れないものがあります。一連の取組は、地域活性型リーダーや地域交流型リーダーを養成するうえで着実に成果を挙げています。専門教育だけでなく教養教育にまで拡大発展させる価値も備えています。ただし、三学部連携事業の推進は容易ではありません。これを名実ともに充実発展させるためには、学長の強力なリーダーシップが不可欠です。

本報告書は秋田大学H15特色GPの最終年度(平成18年度)版です。秋田はもとより全国各地の教育の場で広く活用されることを願ってやみません。